

日没前後の交通事故死 9月以降に大幅増加

平成28年度 秋の全国交通安全運動

平成28年9月21日(水)～9月30日(金)

- 夕暮れ時と夜間の歩行中、自転車乗車中の交通事故防止
- 子どもと高齢者の交通事故防止
- 飲酒運転の根絶

午後4時 八雲 国道5号線 緩やかなカーブ、乗用車はみ出し？ 大型トラックと正面衝突 女性2人死亡

◇デイ・ライトで知らせよう…自分の存在、はみ出し、正面衝突事故防止◇

2016年9月28日 21時18分

28日午後4時前、八雲町浜松の国道5号線で、乗用車と大型トラックが正面衝突しました。この事故で、乗用車を運転していた女性(60)と一緒に乗っていた女性(68)の2人が病院に運ばれましたが、いずれも死亡が確認されました。現場は、片側1車線の緩やかなカーブで、警察は、事故を目撃した人の話などから、乗用車がセンターラインを越えて対向車線にはみ出したと見て詳しい状況を調べています。

2時間ごとに、15分休憩で 守ろう！ 自分の命 他人の命

- 積み下ろし作業中の、荷台からの墜落・転落に注意しましょう
- 鋼材、資材の積み下ろし作業中の、手・指・足のはさまれ事故に注意しましょう
- ハウス、トイレの積み下ろし作業時の、脚立・屋根からの転落に注意しましょう
- 敷き鉄板の積み下ろし作業時、ユニック作業に注意しましょう

深夜 単独事故車にトラックが追突

道路に倒れていた単独事故車の男性が、別の後続車にひかれ死亡、車は逃走

◇夜間…ヘッドライトは遠目が基本、早期発見！ 事故防止◇

◇もしも、もしも、もしも、…のときは…まず、救護◇

2016年9月29日 06:32

29日午前1時前、三重県の名阪国道で単独事故を起こして止まっていた乗用車にトラックが追突する事故がありました。警察によりますと、乗用車を運転していたのは塾講師の男性で、男性は道路に倒れていたところ別の車にひかれました。男性は頭などを強く打って死亡したということです。男性をひいた車はそのまま逃走していて、警察はひき逃げ事件として捜査しています。

原因は？ 脱落タイヤ留めるボルトごと折損

「ガタガタと音がして、パンクしたかと思った」

◇運行前点検で、タイヤ・ホイール・ハブの点検を確実にいきましょう◇

2016.9.29 00:26

岐阜県の中央自動車道で、大型トラックのタイヤが脱落して後続の大型トラックを直撃した事故で、外れたタイヤを留めていたボルト部分が折れるなどしていたことが28日、捜査関係者への取材で分かった。脱落したタイヤを留めていたボルト部分が折れるなどしており、県警高速隊は、ボルトが折れてタイヤが外れた可能性があるとして原因を調べている。捜査幹部によると、左側後輪にあるタイヤ2本を留めていた6本のボルトの一部が折れるなどしていた。県警によると、事故は27日午後7時40分ごろ、中央道下りで発生。運転手の男性(38)のトラックからタイヤ2本が脱落し、後続の運転手の男性(46)のトラックに衝突した。後続の運転手の男性は意識不明の重体となっている。後続のトラックは運転席の屋根付近が大破し、タイヤが跳ね上がったとみられる。近くに直径約80センチのタイヤがあった。脱落を起こした運転手は、「ガタガタと音がして、パンクしたかと思った」と話し、現場の約4キロ先で停止してタイヤが外れているのに気付いたという。トラックは製造から10年以内で、車輪部分はリコール(無料の回収・修理)対象になっていなかった。

夜間の事故防止へ ハイビーム(遠目)での運転呼び掛け

ハイビーム運転を呼び掛けるのは、遠くの歩行者や自転車を早く発見するためだ

対向車の有無や周囲の道路状況などによって、

ハイビームとロービームを切り替えるようにすれば、

常に緊張感が出る。漫然運転による事故防止

2016年9月29日

夜間の交通事故を防ごうと、愛知県警は、車の前照灯を上向きにするハイビームでの運転を呼び掛けている。昨年、県内で起きた死亡事故のうち、日没から日の出までの間に歩行者が被害に遭ったケースは50件、自転車が3件。このうち車がハイビームだったのは、対歩行者の1件だけで、残り62件は前照灯を下向きにするロービームや、消灯の状態だった。県警がこれらについて検証した結果、ハイビームを使っていれば、対歩行者の26件と対自転車の6件は、命が助かった可能性があることが分かった。県警は、車の運転手にハイビーム運転を呼び掛けるのは、遠くの歩行者や自転車を早く発見するためだ。街路灯が少ない道などでは、ハイビームは特に有効だ。ただ、「ハイビームで運転したら、対向車の運転手にとっては、まぶしく感じ、逆に危ない」との見方もある。これに対し、県警は「対向車がいたり、自分の車のすぐ前を車が走っていたりするときは、ロービームに切り替えて」と話す。このハイビーム運動。実は、視認性の向上だけでなく、県警はもう一つの効果を狙っている。「原則、ハイビームで運転し、対向車の有無や周囲の道路状況などによって、ハイビームとロービームを切り替えるようにすれば、常に緊張感が出る。漫然運転による事故防止にもつながる」と県警交通事故対策室。一方、歩行者に対しては、反射材を着けるよう呼び掛けている。